

## 教育セミナー3

### 社会薬学研究の可能性と多様性：“クスリの医療現場を科学する”方法について考える

演者：櫻井 秀彦(北海道科学大学薬学部 社会薬学部門薬事管理学分野 教授)

近年、「患者のための薬局ビジョン」の策定、かかりつけ薬剤師・薬局制度の制定、遠隔服薬指導の試み、薬機法の改正など、薬局や薬剤師を取り巻く様々な環境・制度が大きく変化してきています。私は、こういった変化に対し、一定の道標を提示したり、更には“良い”変化を引き起こしたりする力が、社会薬学にはあると考えています。社会薬学は文字通り、社会と薬の関係性や、そのあり方を考究する学問領域であり、患者と薬剤師がキーパーソン、かつ重要な研究対象であることは変わらないと思います。

このセミナーでは、これまで演者が関わってきた研究の成果を共有しつつ、薬剤師やアカデミア、更には一般の生活者も巻き込んだ社会薬学研究を進め、深め、広げていく方略を皆様と考えてみたいと思います。

演者は、医療経済学に研究の軸足を置く一方で、社会薬学の研究では、統計解析、特に多変量解析の手法を用いて、学際的もしくは学問領域横断的な研究を行ってきました。ここではその中から、以下の4つの研究内容について、当時の苦労談や現時点での反省点、更には他の研究者によるその後の研究レビューも含めて取り上げたいと思います。また、時間が許せば、薬学教育に関するものについても紹介したいと思います。

#### 1) 患者視点での薬局や薬剤師、服薬指導や医薬分業などの評価に関する研究

患者満足だけでなく、後発医薬品や医薬分業制度の患者評価、かかりつけ化への一助などの知見を探ったものを紹介します。

#### 2) 服薬アドヒアランスに関する影響要因の研究

これまで指摘されてきた様々な影響要因を横断的に検討したものや、近年の海外での研究で着目されている概念を援用したものを紹介します。

#### 3) 薬剤師の様々な業務や職務意識間の関連性に関する研究

高齢者施設での服薬管理の実態やドーピング、OTC業務等、更には薬剤師の職務意識に関するものを紹介します。

#### 4) 調剤過誤など医療安全に関する研究

医療安全の中でも、特に薬局薬剤師の意識に焦点を当てたものを紹介します。

これらの多くは薬局との共同研究によるものですし、一部は卒業研究の一環または大学院研究生の研究として進められたものです。よって、社会薬学的な研究を始めてみたいと思っている薬剤師の先生方や、研究の幅を広げたいと考えている、または卒業研究生の調査系の研究テーマに苦慮している大学教員の先生方のヒントとして頂ければ幸いです。